# 総合図書館 TA 講習会 Matlab による実験データのグラフ化

#### 12月19日(水)

工学研究科 TA ズオン クアン <u>タン</u>

### Matlab の起動

#### ■「スタート」ボタンから「全てのプログラム」を選ぶ ■「Matlab R\*\*\*\*」をクリック



実験データの入力

#### メモ帳などのテキスト編集ソフトを用いて実験データを入力

📄 jikan1 - メモ帳		🔲 ondo1 - 🗡	、モ帳				_ 🗆 💌	
ファイル(E) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)		ファイル( <u>E</u> )	編集( <u>E</u> )	書式( <u>O</u> )	表示(⊻)	ヘルプ( <u>H</u> )		
) 30 60 90 120 150 180 210 240 270 300 330 360		D.245 0.24 0.243 0.253 0.355 0.479 0.602 0.72 0.811 0.809 0.82 0.816 0.813						*
•	►						Þ	.H.

#### 入力が完了すると以下のファイルができる

					x
- 🖉 🖓 🗸 講習会		<b>▼</b> 49	講習会の検索		٩
整理 ▼ ライブラリに辿	追加 ▼ 共有 ▼	新しいフォルダー		:≡ ▼ 🔳	0
🚖 お気に入り	名前	更新日時	種類	サイズ	
📕 ダウンロード	📋 jikan1	2012/12/17 17:19	TXT ファイル	1 KB	
📃 デスクトップ	📄 jikan2	2012/12/17 17:27	TXT ファイル	1 KB	
19月1日 - 19月11日 - 19月1	📄 jikan3	2012/12/17 17:27	TXT ファイル	1 KB	
	📋 ondo1	2012/12/17 17:26	TXT ファイル	1 KB	
E==∠ゴ=∪	📋 ondo2	2012/12/17 17:27	TXT ファイル	1 KB	
	📋 ondo3	2012/12/17 17:27	TXT ファイル	1 KB	
E ビデオ					
🚽 ミュージック					
🌉 コンピューター					
🚢 ローカル ディス 🖕					
6個の項目					



### メニュ「ファイル」を開き、「データのインポート」を選ぶ

A 141 10 000100			
MA ZAB R2012a			
[ファイル(F)] 鵜集(E) デバック(B)	Parallel(P)	デスクトップ(D/ ウィンドウ(W) ヘルプ(H)	
新規作成(N)		C:¥IdSers¥Thang¥Documents¥MATLAB	
開<(0)	Ctrl+0		
コマント ワイントワ を閉しる	(C) Ctrl+W	ンドウ ・・ ロ マ ×	ワークスペース +1 ロ き ×
データのインポート(I)		をはじめて使う方は、 <u>ビデオ</u> や <u>デモ、『ご利用の前に</u> 』をご覧ください。	🛅 📹 🗃 😡 プ 🗸 👋
ワークスペースの保存(W)	Ctrl+S		2前
パス設定(H)		0015	
設定(F)			
ページ設定(G)			
印刷(P)	Ctrl+P		
選択を印刷(T)			
MATLAB の終了(X)	Ctrl+0		
	carrie		
			- III
			⊟~% 2012/11/09 20:2
			p ottoo s
i± \$⊞			-a = ones(182,1)
			hold on
			⊜~% 2012/12/17 17:0:
詳細を表示するファイルを選択			clear
			clear all
			plottools -
▲ 人夕一下(5)			上書き;

#### ①実験データ・ファイルのるフォルダを指定

📣 データのインボ・	-ト			×
ファイルの場所(1):	길 講習会	*	▼ 🖷 📩 🔽	
Ca	名前	÷	更新日時	種類
最近表示した場所	jikan1	<u>_</u>	2012/12/17 17:19	TXT ファイル
	📋 jikan2	T	2012/12/17 17:27	TXT ファイル
	🗋 jikan3		2012/12/17 17:27	TXT ファイル
デスクトップ	🗋 ondo1		2012/12/17 17:26	TXT ファイル
	indo2		2012/12/17 17:27	TXT ファイル
ライブラリ	🗋 ondo3		2012/12/17 17:27	TXT ファイル
コンピューター				
ネットワーク	∢	m		۱.
	ファイル名(N):	iikan	▼	開((0)
	ファイルの種類(工):	Recognized Data File	es	キャンセル

) ②インポートしたいファイルを指定

📣 インポート ウィザード		
列の区切り記号を選択		
◎ □>マ ◎ スペース ◎ セミコロン ◎ タブ ◎ その	2他 テキストのヘッダー行の数: 0 🗧	3
C:¥Users¥Thang¥Desktop¥講習会¥jikan1.txt のプレビュー		
0	jikan1	
30		7
60		
90	1 0	
120	2 30	
150	3 60	
180	3 00 1 00	=
210	4 90	
240	5 120	
270	6 150	
300	7 180	
360	8 210	
	240	-
へルプ (戻5) 次へ >	>	

📣 イン	/ポート	・ウィザード			_			_ <b>D</b> _ X
ーチェッ	クボッ	クスでインボ	ートする変数	を選択				
◎ プ	レビュー	ーどおりの変数	数を作成します	•				
<ul> <li>● 各</li> </ul>	列の名前	前を使ってべく	クトルを作成し	/ます。				
<ul> <li>各</li> </ul>	行の名前	前を使ってべく	クトルを作成し	/ます。				
C:¥Us	ers¥Th	nang¥Deskto	p¥講習会¥jika	n1.txt 内	の変換	数		
インオ	ポート	名前 ▲	サイズ	バイト		クラス	プレビュー用の変数が選択されていません。	
	<b>v</b>	Η jikan1	13x1	:	104	double		
							カリック	
< _			III			•	1311	
	プ			< 戻る		次へ。	終了 ■ NATLAB コードを生成	キャンセル

#### 「jikan1」というデータを インポートできる



#### 同様に「ondo1」を インポートできる



# グラフを描く時の注意

- Matlab に様々なグラフの種類があるが実験データの図示には 「Plot」が最もふさわしい。
- 図には必ずタイトルをつけること。
- グラフの軸には必ず物理量と単位をつけること
- ■「見せたい部分」が大きくなるように表示範囲を調整すること

# 実験結果1回目のグラフを描く

#### ①コマンドウィンドウに「plottools」を入力して ENTER

#### ②「2次元座標」をクリックすると、2次元の座標が現れる

🛃 Figure - Figure 1	and the second			- • ×
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 挿入(I)	ツール( <u>T</u> ) デバッグ( <u>B</u> ) デスクト	ップ( <u>D</u> ) ウィンドク( <u>W</u> )	ヘルプ( <u>H</u> )	X 5 K
🗋 🗃 🛃 🔌 🕟 🔍 🧐 🕲	🐙 🔏 •   🗔   🗖 🗉   🗖 🗉			
Figure パレット concord 🗰 🗖 🛪 💻	•		プロット ブラウザー こううううつ	× 5 □ + accenta
▶ 新規サブプロット			☑ 座標軸 (タイトルなし)	
[] 2 次元座標軸 田▶	0.9 -			
1	0.8	¥ 1		
	0.7			
▼ 変数	0.6 -	-		
=	0.5			
▼注釈	0.4			
入行	0.3 -			
大矢印	0.2	J		
📃 🔪 双方向矢印	0.1			
R テキスト矢印	0.1	1		
T テキストボックス	0 0.2 0.4	0.6 0.8 1		データの追加
フロバティ エティター - Figure Connection				× ≋ □ ± ∞
Figure 名:			▼ Figure 番号表示	詳細なプロパティ
カラーマップ:	•			エクスポートの設定
Figure 色: 👌 🗸				
				:





#### 「プロット タイプ」を「plot」にする



X軸のデータを「jikan」」にする



Y軸のデータを「ondo1」にする



# グラフを描く時の注意

- Matlab に様々なグラフの種類があるが実験データの図示には 「Plot」が最もふさわしい。
  - 図には必ずタイトルをつけること。
- グラフの軸には必ず物理量と単位をつけること
- ■「見せたい部分」が大きくなるように表示範囲を調整すること

# タイトルを付ける



ここに図のタイトルを入れる 例:「図1 ヒーター加熱時の温度の変化」



#### タイトルをクリック



# グラフを描く時の注意

#### ■ Matlab に様々なグラフの種類があるが実験データの図示には 「Plot」が最もふさわしい。

■ 図には必ずタイトルをつけること。

■ グラフの軸には必ず物理量と単位をつけること

■「見せたい部分」が大きくなるように表示範囲を調整すること

# X 軸のラベルを付ける



# Y 軸のラベルを入力



# グラフを描く時の注意

- Excel に様々なグラフの種類があるが実験データの図示には 「散布図」が最もふさわしい。
- ■「折れ線」を選ばないように注意 理由:「折れ線」は横軸が固定されてしまう
- 図には必ずタイトルをつけること。
- グラフの軸には必ず物理量と単位をつけること

■「見せたい部分」が大きくなるように表示範囲を調整すること

### 表示範囲の設定



### 軸の書式の設定







# グラフの書式の設定



# 同様に実験2・3回目のグラフを描く



# 同様に実験2・3回目のグラフを描く



### 凡例の追加

#### ここをクリックして凡例を追加







# 描いたグラフの保存

#### メニュ「ファイル」を開き、「名前を付けて保存」を選ぶ



#### ①<u>Matlabの「.fig」形で保存</u> ※目的:後で編集できるため

ファイル名( <u>N</u> ):	graph	•
ファイルの種類(工):	MATLAB Figure (*.fig)	•

#### ②<u>「.jpg」形で保存</u> 目的:レポートに貼るため

ファイル名( <u>N</u> ):	graph	•
ファイルの種類(工):	JPEG image (*.jpg)	•



#### 「はやかわりMATLAB」

![](_page_30_Picture_2.jpeg)

#### 「だれでもわかるMATLAB」

![](_page_30_Picture_4.jpeg)

## ※両方とも総合図書館在庫。検索はOPACで!